

日退教通信

No. 365

2016.3

日本退教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館5F
 発行責任者 竹田邦明
 TEL 03 (5275) 2197 FAX 03 (5275) 2081
 Email nitaikyoo@gmail.com ホームページURL <http://www.nitaikyoo.com>

沖縄を基地の島に してはならない!

2月21日、日退教も2万8千人の仲間と、辺野古埋め立てを阻止するため国会を包囲しました。

以下、昨年11月29日、日比谷野音での藤本泰成平和フォーラム事務局長の挨拶です。

沖縄は、中国・日本・台湾などに囲まれながらも、琉球王国を維持してきました。

しかし、1609年の薩摩藩による琉球侵攻と、1879年の明治政府による「琉球処分」によって、日本に組み入れられ、植民地支配した朝鮮での「日本語の強制」と、沖縄文化の中心に位置した琉球八社の「神社神道」への強制的統合が行われ、言葉も文化も奪われ日本の植民地とされたのです。

沖縄は、天皇制の下に組み込まれ、「官・民共生共死」、軍も市民も日本本土決戦のための時間稼ぎに、悲惨な「沖縄戦」に突入させられました。

敗戦後、侵略戦争と植民地支配の反省に立って、日本国憲法にある平和と民主主義の国を、日本の市民社会は間違いなく選択したはずです。

しかし、安倍晋三が言う「主権回復の日」いわゆるサンフランシスコ講和条約が発効した日、沖縄は米国軍政下に留め置かれ、またも、米国の植民地とされてしまっています。

苦難の時代から、沖縄は闘い続け、日本国憲法の平和と民主主義の下へと復帰



2・21 首相官邸前通り

運動にとりくみ、1972年5月15日、本土復帰を果たします。

沖縄は、日本政府と、沖縄を差別化してきた「私たち本土、ヤマトンチュウ」の手によって、三度植民地化されています。私たちはこの事実と向かい合わなくてはなりません。

実は、私は、一昨日辺野古にいました。私たちの仲間である山城博治沖縄平和運動センター議長が辺野古に復帰し、力強く話されていました。嬉しくも、頼もしい復帰だと思えます。(中略)

山城さんによると、翁長知事のパートナー樹子（みきこ）さんが、辺野古にやってきて、「翁長雄司は何が何でも辺野古に基地はつくらせない。万策尽きたら2人で一緒に座り込むと約束している」と話されたことを、紹介しました。しかし、山城さんは、2人を絶対に辺野古に座らせない。その前に、必ずや基地建設を断念させると、力強く話しています。

毎週水曜日には、県議会・地方議会議員も含めて、1000人もの人々が集まって、そして工事が中断する事態をも起こしています。

機動隊も手が出せない状況が起こっています。

それが2日になり、3日になれば、工事はどんどん伸びていく、そうやって権力を持たない私たち市民は、工事中断に追い込んでいく。

どうか皆さん、一人ひとり、沖縄の植民地化を阻止する思いで、辺野古に足を運んでいただきたいと思っています。そのことが、私たちの責任なのだ、その思いを持つて、沖縄と連帯をしていきましょう。

正義は、私たちにあります。そして、私たちは、必ず勝利します。



2015年5月10日 沖縄県民大会

29字委員会地下6階倉庫、34万人分の資料

「隣人としての韓国人」

―第2回東アジア海外研修旅行報告―

東京高退教 幸地園枝



29字委員会の地下6階



独立記念館 正門前

今回の旅行で、2人の現地ガイド（文仙姫、崔英美）さんに会え、やっと隣人としての韓国人に出会えたという気持ちを強く持つことができたこと、これが一番のお土産になりました。訪韓するたびに、かつて日本人の行なった行為一つ一つがおどましさと恐ろしさ、戦争というものがいかに人間を残酷な生き物にし、それが人間の本質である獣の皮を被ったヒトを造ることになる事実を見るたびにいたたまれなくなりました。韓国の人々の決して許さぬ日本への

憎悪と怒りに、一方では両国の出口のない憤怒の前に、ただ立ち止まり手をこまねいている自分があります。

事実を受け止め、過去の罪を日本人として忘れてはならないと思う一方で、被害者である韓国人は自国がなぜこのような蹂躪をされたのか、どのように歴史の中で内なる問題として考えているのかを知りたいけれども、日本人が言つてよいものかと、しこりのように

持っていたことが、お二人のガイドさんの言葉と手紙の内容で、やっと一方通行ではない関係があるんだと実感させられました。

歴史は時の権力によって歪曲されるので、日本も韓国政府も過去の歴史を都合のよいように作ろうとしているのではないかと、相手に対して監視続ける必要があります。そういう意味では、今回、29字委員会の地味な活動の場を見学出来たことは貴重な体験でした。

29字委員会…対日抗争期強制動員被害調査及国外強制動員犠牲者等支援委員会の略

「戦争と女性人権博物館」ハルモニたちの「ナヌルの家」（今回は行けませんでした）の問題に接するたびに、このようないことが起きる「戦争」に嫌悪を感じつつ、日本の軍隊におどましさと憎しみを持ちますが、韓国

中の人々がハルモニたちの痛みに共感し、怒りと名誉と人権回復のために共感し闘っているのに、なぜ韓国軍隊の一部がベトナムで性暴力を行ったのが納得できませんでした。そして、その行為に対して韓国として公式的に認めず、謝罪もしないことに、私はとても不満を感じています。これは、原爆の唯一の被爆国の日本国民が、福島後も問題は具体的に解決していないのに、生活と経済のために原発事業をすんなり進めてしまうことと同じようなものを抱えています。「被害者」「加害者」という視点からだけではすまないものがあるということでしょうか。そのために過去の歴史から何を学び取っていく必要があるのかを、崔さんのお話と手紙が示唆していると思います。

以下、次号に続く

第3回 東アジア海外研修旅行 (2016年9月4日～8日 4泊5日)

中国（ハルビン・瀋陽・撫順）に対する侵略をこの眼で学ぶ 参加者募集!!



九・一八歴史博物館（旧）

2014年10月の第1回は、西安・洛陽・少林寺の世界遺産を11名の参加者で実施しました。昨年の第2回は、日韓会谈50年、敗戦70年、明成皇后暗殺120年の節目に韓国を訪問し、日本が35年間にわたって植民地にした実相を学んできました。38名の参加者で大変意義深い旅になりました。

さて、今年の第3回は、日清・日露戦争に勝利したあと、日本は朝鮮を植民地にし、更に広大な中国東北部で満州事変を謀略して偽「満州国」を建設、そして日中戦争から泥沼に突入し無残な敗戦を迎えるまでの前半部分を中心に企画しました。

関東軍や憲兵たちは、聞くに堪えない、

見るに忍びない極悪残虐な行為を繰り返し、中国人の家や耕地を奪い、大量の日本人を移住させました。ほとんどの日本人は、中国人人たちに對する罪の意識を持たず侵略の一翼を担いました。うわべだけの薄っぺらな謝罪を繰り返し、極めて不十分な戦争責任しかとってこなかった日本、こ

これらの実相をきちんと学ぶ意義は大変大きいものがあります。

航空便が週2便と少ないので成田発、成田・関空着だけになります。

なお、希望者が多い場合は、申し込み順に定員で打ち切りますのでご理解ください。

月日	都市・時刻	主な内容
9月4日（日）	成田発12：50 ハルビン着14：45	ハルビン駅ホーム（伊藤博文暗殺場所）、 安重根記念館、 松花江遊覧（OP）
9月5日（月）	ハルビン 専用バス	社会科学院訪問、 東北烈士記念館（抗日戦士） 七三一部隊陳列館（細菌生体実験館）
9月6日（火）	ハルビン 瀋陽、専用バス	高速鉄道（旧満州平野を南下） 張作霖・学良記念館、故宮博物館、 九・一八歴史博物館（新）
9月7日（水）	瀋陽 専用バス 撫順	撫順戦犯管理所（溥儀や日本人の戦犯千名収容）、 平頂山惨殺記念館（中国人集団虐殺）、 撫順露天掘炭鉱
9月8日（木）	瀋陽発8：30 成田着12：25 関空着12：10	早朝、瀋陽桃山空港 成田着後解散、帰路 関空着後解散、帰路



教育と文化 82号

参加希望者は、はがき・fax・メールで資料請求して下さい。電話での受付はできません。

主な見学場所の概要、日程表、申込用紙をお送りします。

締切 6月末日

参加者には

- ①教科書にみる中国侵略
- ②中国侵略年表
- ③鬼と化した日本人
- ④敗戦時の在満州日本人
- ⑤日本の戦争責任
- ⑥長州藩と会津藩
- ⑦記録・証言など

オリジナル資料A4版50枚を後日送付します。

申し込み先…住所、FAXは、1面にあります。

日退教 松淵 昂あて

Email : matsubuchi2@gmail.com

旅費はおよそ20万円です。

注文 Tel 03-5210-9171
アドバンテージサーバー

第65回 日教組全国教研〈岩手〉に参加して

反知性主義の克服と

子どもたちの参加する社会へ

会長 清
西澤

岩手は暖かだった。しかし、全国教研は雪がつきもの、全体会の岩手産業文化センターは雪の中に埋もれていた。

今年は、新しい課題が山積している。昨年の戦争法（安保関連法）の強行で「骨抜きにされた平和憲法」をどう取り戻すか。予定されている参議院選挙に参加する「子どもたちへの政治教育」をどうするのか、深刻な「いじめ問題」、正規教職員の減少と、増える非常勤教職員、業務委託、教職員の過重労働、貧困化す

る家族・子どもなどと学校教育をめぐる状況は厳しくなっている。

主催者挨拶で加藤良輔日教組委員長は「原発に頼る社会のありようを変えよう」と最初に述べ教育実践に触れた。教育活動では「子どもの尊厳を尊重することは極めて重要で、教員が暴力を行使している状況ではいじめはなくせない、昨年、私は幼児を胸に抱く母親や若者たちが平和・民主主義のために国会に駆けつける姿を見ました。抑圧や自己規制に負けないように民主主義社会を作り上げていくことは極めて重要で、そのために子どもたちが主権者であることを自覚する教育は極めて重要子どもが自らの意志が社会を作り上げると自覚することを身に着けるには教育の力を置いてない。今年から選挙権が18歳以上になることから、政治教育が特に必要になる。その際に教師が『自らの意見を述べる』ことは大切で、逃げることはマイナスである。勿論、意見を押し付けることは良くないが『正しいけれど言っているのではないことがある』ということは結局は子どもの考え方を成長させない。

全体会場

また、子どもの貧困は重要

な課題だ。この社会にはグローバル企業だけがあるのではない。実際は働く人達（職人、農業、医療、接客業など）が支えている。私たちは子どもの背後にいる保護者のことを知らなければいけない。子どもの成長を通して教育実践は社会に還元される」と提起した。

記念講演は、「ネオリベ文化に抵抗する教育」（白井聡京都精華大学専任講師）だった。講演の半ば、労働組合である日教組に対して、安倍政権を打倒するためには、目先の対立を乗り越えて統一した戦線を作り上げる必要を強調した。彼は、現在の日本で新しい階層化が行われていることを挙げ、貧困化していく階層の文化資産が減少しそのことが子どもの進路に影響し、反知性主義を生んでいる。大衆化した学生の実態から消費すること以外に価値を見出せない社会の中で買物だけが楽しみで知性を磨くことに価値を置いていない学生の姿を指摘した。そして、それを乗り越えるためには、「最小限の倫理として、愛の回復」を挙げた。

分科会は、新しく名前を変えた「メディア・リテラシー教育」を覗いてみた。権力とマスコミの在り方そして政治教育と学校教育、いじめとSNSなど課題は多い。情報をクリティカルに受け止めることを基本にどう展開するか、PCやスマートフォンが一般化し子どもが情報を発信する力を持った今、どのような形で子どもたちは社会や仲間に関わっていくのかなど課題の多い分科会であった。

◆ 編集後記 ◆

「都疎浜町」をご存知ですか

最近のある番組に出ていた「都疎浜町」という地名に、はっとしました。私にとつて「疎」は「疎開」につながります。45年3月10日の東京大空襲で、入谷の家は丸焼けになりました。私はその直前、家族が疎開していた栃木県芳賀郡にある祖母の家に連れていかれ無事でした。6歳の私がそれまで東京にいたのは、「学徒動員令」の工場勤務で姉一人疎開できず、親の配慮で留め置かれたことによります。

私が初めて「空襲警報」を聞いたのは、「42年4月18日の東京初空襲」は別にして、44年11月ごろです。これは多摩地域の軍需工場への爆弾投下だったと後で聞きました。空襲は警報で分かれます。サイレンの連続音が「警戒警報」、断続音が「空襲警報」です。その後何度となく「空襲警報」を聞きしました。当時、「時報」のサイレンは、禁止されていました。

このころ、「強制疎開」が始まりました。近くの、浅草から上野にかけて、1000メートル幅位にあった家がほとんど壊されていくのを見ました。近所のお店の「こぞうさん」に誘われて、壊された跡を見に行ったりもしました。困ったのは、行きなれた「鶴の湯」が壊され、遠くの「大黒湯」に行くことになったことです。この時、私が思ったのは「壊された家の人たちはどこへ行っただろう」ということです。

実は「その人達」の疎開先が「都疎浜」だったのです。「立ち退き」を強制されて行き場のない人たちは、「不毛の砂浜」に移らされたのです。番組で、今は船橋市民になっている元「神田中町」や「錦糸町」などに住んでいた人が、「雨露をしのぐだけの家で、ろくな道具もなく、砂を土に換える開墾作業を、生きるために必死でやりました」と話されていました。空しいのは、「空襲に備えた防火帯」のはずの「立ち退き」が「B29の絨毯爆撃」には、何の役にも立たなかったという事実です。これも「戦争」が住民の犠牲だけを強いる結果となった証明の一つでしょう。

(し)